ヒメワスレナグモ *Calommata pumila* Kishida の記載

Description of *Calommata pumila* Kishida (♂)

By Koyo Haku

白 甲 鋸

宮 崎 高 等 農 林 學 校

I. 緒 言

ヒメワスレナグモは1914年(大正3年)に岸田久吉氏*が新種として報告せられたものであるがその原記載は至つて簡単な記述にすぎないさうである。故に私は此處に京都産の本種について精細な記述をして見ようと思ふ。同好諸彦の御研究に資する處あらば誠に幸とする所である。本記述をなすに當り種々御指導を賜りたる北海道帝大の齋藤三郎先生に對し衷心感謝の意を表します。

II. 記 載

1. 分類上の位置

Order	Araneina	眞正蜘蛛目
Suborder	Mygalomorphae	原疣亞目
Family	Atypidae	地蜘蛛科
Subfamily	Atypinae	地蜘蛛亞科
Genus	<i>Calommata</i>	ワスレナグモ屬
Species	<i>C. pumila</i> Kishida	ヒメワスレナグモ

* 岸田久吉; 日本産蜘蛛類, 科學世界, 8 卷, 1914

2. 採集地 京都市左京區鹿ヶ谷

採集日 IX. 19. 1937. 採集者 白 甲 鏞

3. 測 定 (單位 m.m.)

標 本 番 號	總長	全長	背 甲		腹 部		步 脚			
			長さ	巾	長さ	巾	I	II	III	
	6.0	4.5	1.5	2.0	3.0	2.0	7.0	7.0	7.0	8.5

4. 標 徴

前中眼は圓形にして高き眼隆起上に互に眼直徑の約 $\frac{2}{3}$ の距離に位置す。前側眼及後列眼は2群をなし3眼密集して眼隆起の基部兩側に離れて位置す。前側眼最大なり。頭胸部はその巾長さと略等しく前端は大顎と接する部分深く抉ら

る。頭胸部の巾は左右第2第3歩脚の間を連ぬる線最も巾廣し。中窩は縦に深く抉られ頸溝及放射溝明瞭なり。上顎は體に比して甚だ長く前上方に突出す。

牙は基節より稍短く且つ彎曲す。牙溝を缺く。下顎は細長にして *Calommata* 屬特有の形を具へ下顎内縁には長毛を密生す。下唇は横位の長橢圓形にして前縁淺く切込み長毛を生ず。胸板は中凸にして略4對の白色の淺き凹陷點見られ第4歩脚に對する凹陷點最も大にして明瞭なり。腹部は長橢圓形にして黒毛を生ず。後絲疣は明かに3節よりなり腹背より認め得らる。

觸鬚は腿節最も長く脛節これに次ぐ。脛節は著しく膨大す。跗節の構造は比較的簡單に

fig. 1.

して圖に示せる如し。歩脚は細長にして第4歩脚最長にして第1第2第3歩脚は同長。各歩脚長は測定表に示せる如し。

5 色 彩 (アルコール浸)

頭胸部は黄褐色にして眼隆起は暗褐色を呈し眼隆起より中窩に至る3條の細き暗褐色の條紋ありて中窩に至るにしたがひ條間狭くなり中窩に至るに及びて全く相合す。上顎の基節は黄褐色なるも牙は綺麗なる赤褐色を呈す。歩脚は灰褐色なるも蹠跗兩節は黄灰色を呈す。腹部は黒褐色にして絲疣肛丘並に書肺の部分は灰白色を呈す。觸鬚の膝節の全體及脛節の先端白色を呈す。胸板は黄褐色にして4對の白色凹陷點あり周縁部は細く暗赤褐色に縁取られ下唇は胸板よりも暗色を帯ぶ。

fig. 2.

III. 本種についての疑問

本種は總べての點に於てワスレナグモ *C. signata* Karsch に似てゐて京都で採集した當時私はワスレナグモのゑと思つてゐた程である。

今でも私はヒメワスレナグモはワスレナグモのゑではなからうかと云ふ疑問を抱いて居るのであるが併し確かな反證もないので當分ヒメワスレナグモを別

fig. 3,

種として岸田氏の名稱を襲用することにした。此の問題に関しては齋藤三郎先生も「考へ様に依つては *Calommata signata* Karsch ワスレナグモの雄でないかとの疑問も生じます。然し……(中略)……當分 *Calommata pumila* Kishida ヒメワスレナグモの學名を使用するのが至當と考へます。」とその私信中に述べて居られるのである。

併し是まで採集された標本が總べてのゑのみであ

つたと云ふことはこれに一つの強みを與へるものではなからうかと思ふのである。ヒメワスレナグモの採集史を示せば次の如し。(齋藤三郎先生の私信に依る)

(イ) 岸田久吉氏の原記載は♂に依つたものである。

(ロ) 大正末期に長野縣上伊那郡南向村で採集された標本も♂であつた。

(片桐三樹氏に依るとのこと)

(ハ) 昭和9年頃長野縣で採集されたものも♂であつた。

(ニ) 筆者の採集品も♂である。

扱て此の疑問は將來本種の♀が採集されることがあれば自から氷解することであるから同好諸彦の御留意を乞ふ次第である。

IV. 参 考 文 献

齋 藤 三 郎 ; 蛛形綱真正蜘蛛目 (I) 古疣亞目原疣亞目 ; 日本動物分類第九卷第二編第一號 p. 51 ; 1938

圖 の 説 明 (圖擴大)

fig. 1 *Calommata pumila* ヒメワスレナグモ♂の背面圖

fig. 2. *C. pumila* ♂ の左觸鬚の内側面圖

fig. 3. *C. pumila* ♂ の胸板及下顎下唇を示す。

(VIII. 14. 1938記)

標 本 交 換

下記の蜘蛛少數所有して居りますから、何かと御交換下さい。

1. キノボリトタテグモ *Pachylomerus fragaria* Doenitz
2. マダラヂョラウグモ *Nephila maculata* (Fabricius)
3. ト ゲ グ モ *Gasteracantha kuhlii* L. Koch
4. ス ズ ミ グ モ *Suzumia orientalis* Kishida
5. (キョクトウサソリ) *Buthus martensii* Karsch

(八木沼)